

※調査は、昨年12月から実施され、回答のあった医師131人、看護職97人の計228人の回答をもとにまとめたものです。

### **終末期医療では、家族の意見・本人の意思が不可欠**

アンケートでは、「高齢者の患者・家族の終末期の医療方針について話す時、どんな困難を感じるか」の質問に、全体の約8割の人が「家族の意見が一致しない」と回答。次いで「本人の意思がわからない」が63.0%、「死を受け入れられない」が43.6%で上位を占めていました。

また、「終末期の担当患者について治療方針を決定する際、主な要素は何か」といった質問に、66.5%の人が「患者本人の意思」と答えており、次いで「家族の意向」が29.8%、「医師の方針」が0.9%でした。

調査結果から、終末期医療に関して医師または看護スタッフが求めるものは、「家族の意見の一致」「患者本人の意思」であることがわかりました。

編集部 つつみ さえこ